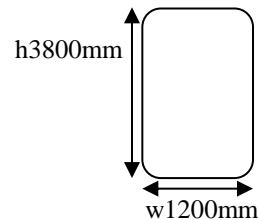


# 大きい窓への施工

大きい窓ガラスへ施工する場合、液剤の乾燥スピードに注意して行って下さい。  
1人で施工できない場合、2～3人で分割して施工します。  
(下記①を上部1人、②～を1人で行います。)

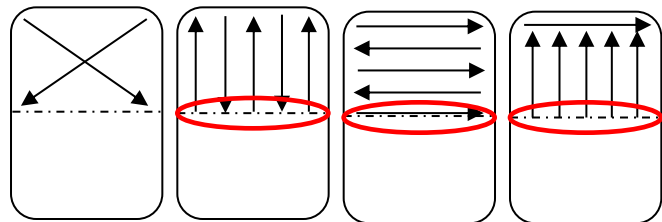


例) h3800mm\*w1200mmのガラスの場合  
面積 : 4.56㎡  
塗布量 : 25g/㎡  
使用量 : 4.56㎡\*25g=114g

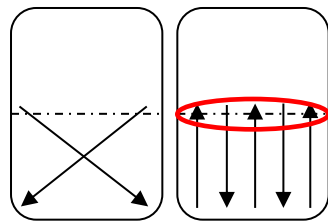
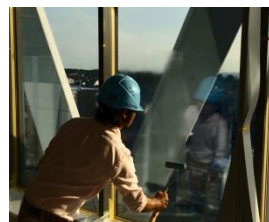
参考動画: <https://www.youtube.com/watch?v=TzSFYj5Rfg&feature=youtu.be>

## 断熱ガラスコート 施工注意点

① 上側半分を通常通り仕上げます。※繋ぎ目は、一定の位置で揃えて下さい。



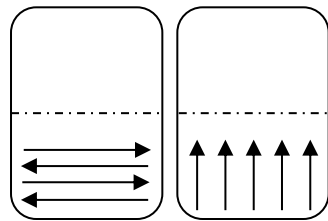
② 同様に下部を縦塗りのみ終わらせます。※上部との繋ぎ目を少しかぶせて下さい。



③ 繋ぎ目の部分を少し力を入れて横入れで消し、先に仕上げます。



④ 途中より仕上げを行った所に、ローラー跡が残っているので、その部分より横入れを行い跡を消し、そのまま最下部まで転がします。  
途中で横入れを開始した部分までを仕上げ塗りして完了です。



# 現地調査での確認事項

## ①作業期間の確認

### ②窓ガラスの確認

- ・ガラスの種類やガラスメーカーの確認
  - ・網入りガラスへの施工は熱割れの可能性がある為、不可。
  - ・熱線反射ガラス・熱線吸収ガラスは、金属塗布膜のついてないガラス面へ施工実施。ただし、夜になると干渉縞が発生します。
  - ・Low-Eペアガラスは、遮熱皮膜のついてない窓ガラス側へ塗布。

- ・ガラス自体に歪み及び虹彩現象は無いか、斜めから見て確認
  - ※特殊ガラス等では、元々歪みや虹彩現象が出ている場合があり、施工後に気付いても遅い為。

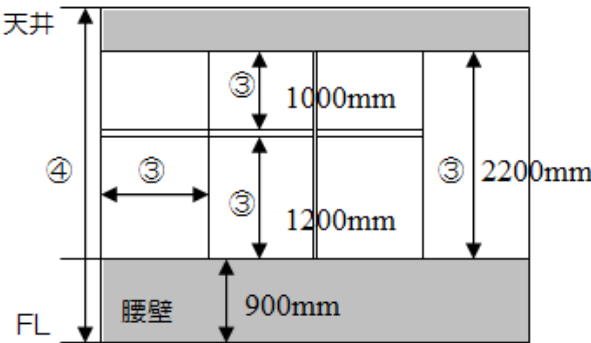
- ・窓ガラスにキズは無いか(作業中につけたキズで)
  - ※キズが深いと表面張力で液が弾かれる場合有

- ・既存フィルムが貼っていないか

## ③ガラス面積×枚数

### ④高さの確認

- ・腰壁の高さの確認
  - ・ガラス最上部までの高さ(腰壁を含む)
- ※状況により、脚立等使用する為。



## ⑤施工環境の確認

- ・結露が起こる環境ではないか。又、室内温度(10度～30度内)・湿度(70%以下)は保てるか。
- ※結露している場合、作業を中止又は延期して下さい。
- 又、温度・湿度が高い場合レベリングの問題や白濁する恐れがありますが、空調で管理できれば問題なし。
- 但し、湿度管理をする為施工後も空調を1日は運転させます。

- ・作業スペースを確保できるか確認

※移動及び脚立を使用する場合がある為、窓から1.5mは必要

- ・材料や脚立等の搬入経路は確保できるか。又、エレベータの使用は可能か。

## ⑥お客様への伝達事項

- ・トップコート中に発生する臭いは、人体には問題ないが、臭いが抜けるまで2～3時間かかります。
- ・表面乾燥するまでの間、埃は少なからず付着します。1m離れた箇所から見て問題なければそれでおお客様にご理解頂いております。

## ⑦現場写真等(下記が分かる写真等)

- I. 全体が把握できる全景
- II. 作業スペースとなる付近の状況
- III. 腰壁の状態
- IV. 窓部の状況
- V. ブラインドの状況
- VI. 図面があれば(立面・平面・建具)

# 施工の注意点

HOTガードは空気中の水分(湿気)と反応し、硬化していきます。施工環境や施工方法によって、コーティング面の状態が変化し、以下の現象が起こる可能性がある為、注意が必要です。

## ①コーティング膜の凹凸

通常はローラーでのコーティング時に、凹凸であった塗膜が自然に平滑になりますが、以下の環境では凹凸の状態では硬化してしまいます。

- ・気温が30度以上の環境
- ・直射の差込みでガラス温度が高すぎる
- ・湿度が70%以上
- ・施工時にローラーを5分以上転がし続ける
- ・風が直接あたる環境

表面が凹凸の状態では硬化すると、視界不良になってしまいますので、特に**コーティング剤の乾燥スピード**に注意して下さい。

## ②塗膜の白化現象

湿度が高い(空気中の水分が多すぎる)場合、コーティングの膜に水分が付着し、白く濁った状態になります。

- ・降雨などにより室内の湿度が高い
- ・冬場の結露発生

通常は施工後(表面乾燥後)は、窓を開けて換気しますが、降雨時は施工後も半日は換気を控えて下さい。結露が発生する環境の場合、コーティングは午前中に終え、表面の乾燥時間を十分に確保して下さい。

症状	主な原因・理由	対策	写真
表面の凹凸	いじり過ぎによる硬化不良 高温・多湿による揮発促進	コーティング作業を1枚あたり3分以内に 終える 1度に調合する液量を減らす 空調での温度・湿度の管理 (気温25度以下湿度60%以下の環境)	
白濁	70%以上の湿度 夕方～朝方にかけての結露	コーティング作業を午前中に終え、夜までに 乾燥させる 空調で温度・湿度を管理 (気温25度以下湿度60%以下の環境)	
ハジキ・刀傷	シーリングのオイル 下地処理不足	下地処理前に、マスキングテープで シーリング部を覆い 油膜取り作業後に貼り直す	